

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

報告日：2020年2月20日

【適正利用・エコツーリズム WG に関する特記事項】

本 WG は、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で 2010 年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしている。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WG として検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断し、2018 年度から適正利用・エコツーリズム WG を単独開催している。

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討がなされた 3 件の状況は以下のとおりである。また、過去の提案も含めた検討状況は別紙 2 のとおりである。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ● 半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして、2016 年の検討会議で 5 年間の試行を承認した。 ● 2019 年度は計 20 人（ツアー催行 3 回）が参加。ツアー参加者に対するヒアリングの結果、羅臼昆布の産業文化や自然との共生の歴史について伝承するため、ツアーを継続すべきとの意見が目立った。 ● 2018 年度第 1 回検討会議で指摘されたツアー名称の不適格性については、2020 年度実施分から「知床岬の歴史は羅臼昆布にあり～知床岬 399 番地上陸ツアー～」とすることで合意した。 ● 2019 年度第 1 回検討会議において、残る 2020～2021 年も

		<p>継続することを明言した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一方、ツアーの経営的持続可能性について検討が必要。
<p>厳冬期の知床五湖 エコツアー事業</p>	<p>斜里町観光 協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施。 ● 2019年度は2020年3月22日までの実施を予定。2020年2月5日現在、計755名（前年度比111.5%）が参加。 ● ゲート管理により一般車両の進入は今後も防止可能とされた。
<p>知床観音岩 COAST WAY フットパス コース</p>	<p>知床羅臼フ ットパスク ラブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2018年第1回検討会議において、遺産地域における漁業現場の見学と、相泊から観音岩までの徒歩利用者の増加に対応したフットパス利用について提案された。 ● 場所柄、フットパスとしての利用が適しているとの判断が難しく、利用に対する管理について課題解決が困難であることから、2019年度第1回エコツアー検討会議で提案が取り下げられた。

2. 個別地域における取り組み状況と課題

○知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道（ヒグマ活動期及び植生保護期）を運用した。2019年度の地上遊歩道立入者数は65,021人（前年比95%）であった。地上遊歩道の更なる利用の安定化や質の高い自然体験を提供するため、2020年度から自由利用期（10月21日～閉園）を植生保護期に変更することとして手続を進めている。

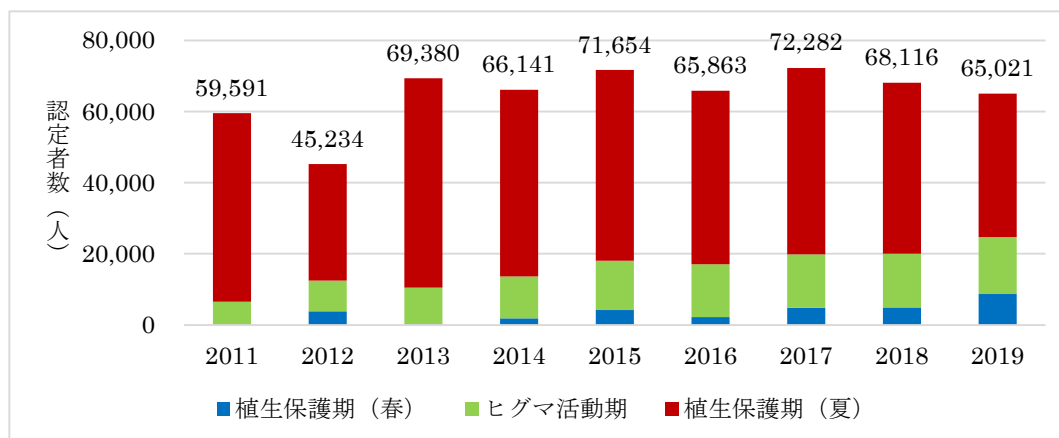


図1. 制度運用期間立入認定者数

○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

2019年度は8月1日～25日の25日間でマイカー規制を実施した。2019年度のカムイワッカ地区の利用者数は、マイカー利用者、シャトルバス乗車人数ともに10%程度増加し、53,040人（前年比111%）を記録した。2020年も8月1～25日の25日間でマイカー規制を実施する見込み。なお、2021年以降のマイカー規制のあり方については、知床五湖の混雑やカムイワッカ地区の利用のあり方、沿線道路沿いでの野生動物対策等、幌別以奥の交通アクセスの課題を総合的に検討して判断することとした。

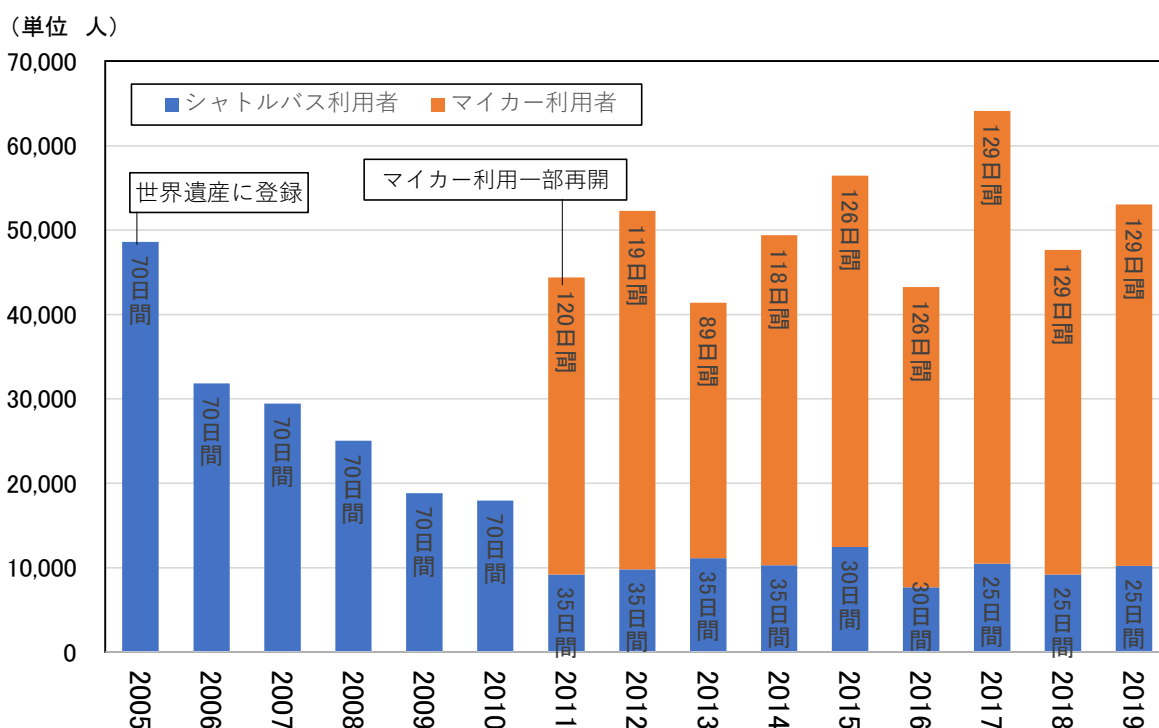


図2：2020年度カムイワッカ地区の来訪者数（推定）

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、海鳥WEEKや海鳥トーク、自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施した。我孫子ジャパン・バード・フェスティバルや大阪自然史フェスティバル等の知床外へのイベントにも積極的に参加し、PRを実施した。現在、知床ウトロ海のハンドブックの売上収入を海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動に充てているが、改訂が必要か検討中である。

3. 主な検討事項や今後の予定

○検討会議

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、引き続き年2回実施予定。
- ・ヒグマ対策連絡会議や野生動物観光促進事業、知床国立公園利用のあり方に関する会議については、必要に応じて情報提供を継続し、知床のエコツーリズムの動向を共有する。

○OWG

- ・長期モニタリング等について科学的助言を得るため、引き続き年2回実施予定。
- ・長期モニタリング計画の見直しを受け、新たに設けた「No. 19 適正利用に向けた管理と取組」「No. 20 適正な利用・エコツーリズムの推進」についてモニタリングが適切に実施されるよう科学的助言を行う。また、モニタリング項目及び評価項目の評価方針について検討する。
- ・北海道運輸支局をはじめとする地域外の資源利用者とのコミュニケーションを図り、北海道観光局等を中心に、民間関係者も含めた知床の適正な利用について検討する。

上記2会議ともネット接続による遠隔参加を可能にする試行をはじめめる。